事業の目的

次世代の担い手育成事業とは？

この事業は、将来の社会を担う子どもたちが授業を通して福祉の現場を知り、仕事の魅力にふれることで、高齢者・障がい者福祉の現状や福祉分野の職業について理解を深めようとするものです。

ねらい

子どもたちが、将来社会人として自立していくために働くことの喜びややりがいを学ぶとともに、福祉分野の課題解決に参画する姿勢を育成していきます。

授業内容

STEP 1

導入学習

福祉について基礎的なことを学びます。

STEP 2

事実の調査

施設の方など専門家から話を聞いたり、実際に施設で職業体験をしたりして、さらに理解を深めます。

STEP 3

学びを広める

学習したことをより多くの人に知ってもらうために、広報誌やCMなどを作成したり、発表会を開いたりします。

高齢者や障がい者、児童等に福祉サービスを提供している施設の協力を得て、そこで働く人への取材や実際の仕事体験を通して、福祉の現状や課題、福祉に関わる職業についての理解を深めるための実践教育の授業を行います。

対象学年

概ね、小学校4年生から中学校3年生を対象としています。

授業時間

1時間からでもご都合に合わせて実施可能です。 ※取り入れる活動内容によって異なります。

作成するもの

福祉の現場で働く人について気づいたことや、これからもっとこうすればさらに良くなることを広報誌（新聞など）やCMなどにまとめて発表します。

習得スキル

以下のような能力の育成を目指しています。

- チームで働く力
- リーダーシップ
- コミュニケーション能力
- 情報収集・分析能力
- 表現力　など

モデル事業のプラン例

主として「総合的な学習の時間」を活用しながら、「国語」「社会」「技術家庭」などの学習内容を取り入れて組み立てることができます。

授業プラン①（10時間モデル）

- これからの活動について（1時間）
- 専門家から学ぶ（1時間）
- 現状の整理と取材準備（1時間）
- 施設訪問と取材（4時間）
- 取材のまとめと分析（2時間）
- 発表と提言（1時間）

授業プラン②（20時間モデル）

- これからの活動について（1時間）
- 専門家から学ぶ（1時間）
- 現状の整理と取材準備（1時間）
- 施設訪問と取材（4時間）
- 取材のまとめと職業体験の準備（1時間）
- 職業体験に向けて（1時間）
- 職業体験（6時間）
- 学習したことを広めるために（2時間）
- 企画書を形に（2時間）
- 専門家から学ぶ（1時間）

その他

1時間からの授業プランも可能です。

- 疑似体験
- 施設見学
- 職業体験

など、ご希望に応じて対応します。

実践者の声

子どもたちの声

お年寄りの人にあったら、笑顔であいさつをしようと思った。大切なのは、どんなときも思いやりを持って接するということを学んだ。

仕事体験は大変だったけど、1つ1つおもしろかった。また、行きたいと思った。

施設に行った時、利用者の方に笑顔で迎えていただいた。仕事の時、ありがとうと言っていただいて嬉しかった。

僕たちは、次の高齢化社会を支える一人にならなければならないと思った。

学校の声

子ども達が触れ合える体験で、良い経験になりました。利用者さんにも大変優しく接していただき、福祉施設から帰ってきた時に色々な思い出を話してくれました。その中で、福祉の仕事の魅力を子ども達なりに考え、あこがれを持つ子どももいました。また、新聞を発表するのも初めてで、グループで協力して、相手に伝えることの楽しさも同時に味わえたようです。

福祉の意味すら理解していなかった児童が、いろいろな体験を通して、福祉とは何かを理解することができた。また、社会的に弱い立場にいる方達へ、どう接すればよいのか思いやりの心が、育成できた。

協力団体の声

福祉に対するイメージが「楽しそう。」と感じてもらえた。受け入れ側施設職員の日々の業務について、改めて見直す機会となった。体験を通して自分たちの地域にある施設について理解してもらう良いきっかけとなった。

ご利用者に「ありがとう」と言われたり、皆さんの笑顔を見て、福祉の仕事に魅力を感じたと言われた。児童との交流でご利用者が、とても喜ばれて和やかな表情をされるので、よい機会となった

実際に利用者と関わったり、職員のインタビュー等を通して、学校以外でしか経験出来ないことを児童に学習してもらいましたが、最後に児童に感想を聞くと、「楽しかった。」と答えてくれ、楽しみながら体験してくれたことで将来の仕事の1つとして考えてくれるきっかけになったのではと感じています。

福祉の仕事

次世代の担い手育成事業合同発表会

次世代の担い手育成事業実践校が一堂に会し、その取り組み活動を発表します。